



天塩川

天塩町の発展と共に歩む
日本最北を流れる大河

天塩川は日本の最北を流れる大河で、国内では珍しく、北に向かって流れる一級河川です。長さは約256km(北海道第2位)、流域面積約5590平方キロメートル(北海道第3位)。石狩川に次いで北海道では2番目、全国でも4番目の長さを誇ります。

天塩川は、北見山地の天塩岳(1557m)にその源を発し、士別市、名寄市、美深町を北に流れ、音威子府村、中川町を経て留萌管内に入ります。士別で剣淵川、名寄で名寄川、管内では問寒別川、雄信内川などの支流と合流しながら、天塩町に到着し日本海に注ぎ込みます。流れはおおむね緩やかで、わずかに音威子府から中川の間のみが険しい程度です。魚類も豊富で、幻の魚として保護されている大型淡水魚のイトウをはじめ、ヤマメ、ニジマスなど50種類ほどの生息が確認されています。

天塩川は町の発展とともに歩んできた河川でもあります。河口は江戸時代に北前船の港として開かれ、名産のシジミ貝やサケ漁、ニシン漁で賑わいました。そして、明治期には奥地から切り出された木材を筏(いかだ)流しによって、港へと送りました。木材によって、たくさんの労働者が集まり町は栄えました。大正初期の人口は7000人以上で、これは現在の約2倍です。川は奥地との交通の役目も担いました。明治33年(1900年)に天塩川航路が開設され、河口と上流部を結んでいました。乗客や生活物資、郵便物などを運び、昭和24年(1949年)頃まで運航していました。現在は日本一長いカヌーの旅ができる川として知られ、本州からも愛好者が訪れています。

見どころ

河口近くに、擦文時代(8世紀後半～中世)を中心とする竪穴住居群の跡が発見された川口遺跡があります。林の中に遊歩道が設けられ、竪穴住居を復元したものを数基配置しています。

ポイント

全国でも4番目の長さを誇る大河。河口部は江戸時代に北前船の港として開かれ、ニシンなどの水産物や木材の集積地として栄えました。河口と名寄間を結ぶ天塩川航路も開設され、鉄道が開通する大正期まで活躍しました。

五感で感じる！ 風土資産の魅力



聴 曲がりくねった河川を直線化することで、河川から切り離された部分が三日月状の湖水となり、これを三日月湖と呼びます。

天塩平野にある三日月湖は渡り鳥の餌場となっており、3月中旬～5月初旬には白鳥・カモ類、春～秋にかけて青鷺を観ることができます。野生の鳥の鳴き声を聴くことができるかもしれません。

触 天塩町内を流れる川からの眺めは絶景で、川を下りながらのんびりと自然を満喫するカナディアンカヌーのメッカとして知られています。地元の愛好家はもちろん、全道各地から雄大なロケーションを求めてカヌーイストたちが訪れます。

知 天塩川本流・支流で水揚げされるシジミは食味がよく、中でも鮮緑色に包まれた天塩独特のシジミは高級品として珍重されている逸品です。

この貴重な資源を守り育てるため、生息調査に基づいた漁獲制限や禁猟区域、作業時間などの設定に努め、現在では大型サイズのシジミ貝が水揚げされるに至りました。

■基本情報 (R7.3)

水系：一級水系天塩川
種別：一級河川
延長：約256km
流域面積：約5,590km²